

「俺に目隠しをした彼女が淫らに囁いた夜 2」

チャプター1 『イカせっこで勝負!』

彼氏と同棲する家でオセロに興じるヒロインのミヤコ。

負けた方が勝つた方の言うことを聞くというルール。ijiのところミヤコの連戦連勝なのだが、勝たせてもらっているような気がして何だか面白くない。というのも、勝ったミヤコが彼氏の身体を好き放題するというエッチばかりになっていて、それはつまり、マゾである彼氏がわざと負けているのではないかとミヤコは思っているのだ。

ミヤコ：いえーい、また私の勝ちー。もうオセロじゃ負ける気しないなー。

「くつそー、また負けたー」と悔しがる彼氏だが、そんな彼の表情は、ミヤコの目に全然悔しそうには見えない。

ミヤコ：……ねえ。

ミヤコ：まさか、わざと負けたりしてないよね。負けた方が言うこと聞くルールだから、私にいじめられたくて手を抜いてるんじゃないの？

ミヤコ：手加減されて勝つても全然うれしくない。

彼氏「手加減なんかするわけねーじゃん。何言つてんだよ」

ミヤコ：ウソ。だって前はもっと強かつたじゃん。

彼氏「そう……かもしれないけどさ……。ていうか、ミヤコが強くなつたんだよ」

ミヤコ：じゃあ、もう一回やろうよ。あなたが勝つたら、いじめてあげる。私が勝つたら、今日のエッチはなし。

彼氏「ちょっと、なんだよそれ……」

ミヤコ：いいじゃんべつに。あなたはもともとオセロ強いんだから、ちゃんと本気でやれば私に勝てるでしょ。

彼氏「そりゃそうだけど……」

ミヤコ：そりゃそうだけど……じゃないつ。いい、さつきのゲームで勝ったの私だからね。負けた方は何でも『う』と聞くつてルールなんだから、ちゃんと守つてもううみ。

彼氏「まあ……、うん……、わかった」

ミヤコ：ほら、準備オーケー。やるよ。

二回目のオセロ対決。今度もミヤコの勝利。
もちろん、ミヤコは勝つても全然うれしくない。

ミヤコ：……ねえ、なんでもまた負けてんのよ。しかもせつせつ大差で負けてんじやないの。

彼氏「いや、ちょっと……絶対勝たなきやつて思つたら焦つちゃつたかな……」

ミヤコ：焦つちゃつた？ 絶対勝たなきやいけないつて思つたら焦つて集中できなかつたの？ はあ……、プレッシャーに弱すぎ……。

ミヤコ：よく私に勝つたね。がんばったね、ご褒美だよつていじめてあげたかったのに……もう。

彼氏のズボンの前が盛り上がっているのを田代とく見つけるミヤコ。

ミヤコ：ていうかさ、なんでソコ大きくしてんの？

彼氏「えつ！？ な……なに『う』ってんだよ」

ミヤコ：わかるよ、大きくなつてゐるの。なんで？

彼氏「いや、あのせ……（略）」

ミヤコ：本気で頑張つたんだけど、私に勝てないつてわかつた瞬間に興奮しちやつたつて……どういうこと？ 負けると興奮しちやうの？

彼氏「うん……興奮しちやつた」

ミヤコ：なにそれ、変態じやん。女人に負けると興奮しちやうつて……全然意味わかんない。

ミヤコ：まあいいや。今日はエッチはなし。映画でも見る？

ミヤコ：いじめでしょんぼりしながつた彼氏はしょんぼりとうなずく。

ミヤコ：……なに、しょんぼりして。

ミヤコ：そりやつてしょんぼりしてるくらいなら、私を襲つたら？ 私だつて……

ミ葉に詰まるミヤコに、彼氏が「なに？」と問う。

ミヤコ：うつせに。女にそんなこと言わせんな。

ミヤコ：あつ！ そーだ！ もう一回だけ勝負しない？ 今度は、エッチで勝負！

彼氏「エッチで勝負？」

ミヤコ：うん。お互いに相手の弱いところを責め合つて、先にイかせた方が勝ち。面白くない？

ミヤコ：あなただつて一応男なんだからさ、男だつたら女の子をイかせてやりたいとかつて思うでしょ？ あなたの男らしいところ……久しぶりに見せてよ。

彼氏「ふうん……なんか面白そうだな」

ミヤコ：お、なんかやる気になってきた？ いいよいよ、その調子で私のことイかせてみてよ。もちろん私だって、負ける気はないけどね。さ、ベッド行こ？

二人、ベッドに並んで横になる。

ミヤコ：こんな感じでお互い密着した形でベッドに横になつて……。気持ちいいからつて逃げたり、相手の手をつかんだりしたら反則ね。痛くするようなこともダメ。

ミヤコ：気持ちの準備はいい？ ジャあ、始めよっか。

ミヤコ：まずはどうするの？ キス？ うん、いいよ。

ミヤコ：(たがいに唇を合わせたり、ついばんだりするような軽いキス)

ミヤコ：(舌を絡めはじめて……)

ミヤコ：(だんだん吐息に熱がこもってきて……)

彼氏の手が、ミヤコの胸に伸びる。

ミヤコ：んつ……あつ……。あなたのおっぱいのさわり方……、やさしくて……、好き……。んつ……。

ミヤコ：(胸を揉まれながらディープキスを続ける。ときおり、小さくあえぐ)

ミヤコ：(胸を揉まれながらディープキス。だんだん気持ちよくなってきて、あえぐ頻度が高くなる)

ミヤコ：私も……反撃しちゃうんだから。ほり……、おちんちん手でじごいてあげる。

ミヤコ：すい……、カたいね。もつと……キスしよ？ キスしながら手コキしてあげる。

//ヤコ：（胸を揉まれながら、キスをしつつヨキ。とかおり小さくあえぐ）

//ヤコ：ほり、おっぱいだけじゃ勝てないでしょ。もつ濡れてるから大丈夫。手でいじって？

//ヤコ：ひやつ……、ん……はう……、ん……んふつ……、ん……、ん……、んうつ……、んつ……、はあつ……。（声を漏らさないように我慢してのけび、鼻から喘ぎ声が漏れてしまつ）

//ヤコ：ちゅーしょ。ね？

//ヤコ：ちゅつ……もうつ……、私の弱いトコ……、教えすぎたかもつ……。このままあなたにイカされるのもいいけど……、ごめん、私負けず嫌いだし。反撃するね。あなたの好きな耳舐めしてあげる。

//ヤコ：（耳舐め）

//ヤコ：ん？　じしたのかな？　急におとなしくなつちゃつて……。

//ヤコ：ふふつ、身体ビクビクさせてかわいい♪

//ヤコ：形勢逆転つて感じかな？　おちんちんもほら、私の手でいじめてあげる。しぐ……しぐ……しぐ……つて。あは、さつきより硬いね。どうして？　耳舐めされて興奮しちゃつたの？

//ヤコ：いいよ、じゃあ……もつと興奮して？

//ヤコ：（耳舐め）

//ヤコ：いりやつてるとさ、あなたのこと責めてる…って感じがしてすつづい好き。あなたはどう？　私に責められてるって感じする？

//ヤコ：耳をいじめられるの大好きだもんね。おちんちんどんどん硬くなつてきてる

よ。ふふつ。

ミヤコ：せり……せり……せり……、畠葉でじめられながらおちんちんしきつけられて……、どんどん気持ちよくなつちゃうの。いいの、自分だけ気持ちよくなつて？このままじゃ負けちゃうよ~

三十九

ミヤコ：あは……なにそれ。そんな指の動かし方じや、全然気持ちよくないんですけど。もしかして、気持ちいいのを我慢するので精一杯？　くすくす……くすくすくす

ミヤコ：じゃあ、もつと気持よくしてあげちゃおつかなー。あなたの先っちょから出てきたねばねばを私の手に絡めて……、亀頭をグリグリっていじめてあげる。ほら…ほらほら♪

ニヤ口：耳舐ぬ

ミヤコ：どーした男子いー、このままじゃ女子に負けちゃうぞー。それとも、女子に負かされたいのかなー。くす……くすくすっ。

ミヤコ：私のこといかせてやるーってヤル気ある団をしてたあなたはどこ行つちゃつたのかなー。ちょっとかっこよかつたのになー。

ミヤコ：ひやつー……んつ、……んうつ……あ……んつ……。なによもい、急にやる
氣出して。私だって、負けないんだから。ほら、おちんちんぐりぐりぐりー♪

ミヤコが再反撃すると、彼氏はすぐにへたつてしまつ。

ミヤコ：あはっ、言つたでしょ。私……負けず嫌いだつて。絶対負けないんだから。ほり、気持ちよくなつて？

//ヤコ：（耳舐め）

//ヤコ：私に責められるとすぐにヘナヘナになつて……ほんと弱いんだから。そんなでよく私に勝とうつて気になつたよね。女子に責められるのが大好きなマゾのくせにね。ふふつ……うふふふふつ。

//ヤコ：ほりほり、うれしいんでしょ、ねえ？ 私におちんちんと耳をいじめてもうの大好きだもんねー。

//ヤコ：（耳舐め）

//ヤコ：さつきから恥ずかしい声で喘あおくつりやつて……、ほり、もつと聞かせて？ 嫌だつて言つても、喘がせりやうかり。

//ヤコ：（耳舐め）

//ヤコ：男のくせに、オセロでもエッチでも女子に負けちゃうんだね。それって、普通に考えてどうなのかな？ 何をやっても女子に勝てないつて、男として悔しくないの？ ねえ？

//ヤコ：私の思うがままに身体をなぶられて……、一方的に負かされそうになつちやつてるのに……、それでもおちんちんカタあくくさせて恥ずかしい顔でコガリまくつて……。ほんとヘンタイだよね、あなたつて。

//ヤコ：（耳舐め秒）

//ヤコ：あなたみたいに救いようのない変態さんはあ、心も身体も女子に犯されて、おちんちんから白いのびゅくびゅくうつて出して負けちゃうのがお似合いだよね。……でしょ？ ねえ？ くすくすつ。

//ヤコ：違うつていうんなら、反撃してござらんよ。ほり、ギリしたの？ ほり。

//ヤコ：むう反撃すりできなくなつちゃつてるし。ほんと弱いんだから。ふふつ……、ふふふつ。

//ヤコ：（耳舐め）

//ヤコ：ふふ……あーあ、気持ちよさそうな顔しちゃって……。最初のうちは私に勝つうとして頑張ってくれたみたいだけど、これまでかな？

//ヤコ：まだまだとか言っちゃって……。あなたの手、さっきから全然動いてないし、おちんちんだってしこしこされるたびにビクビクさせてるじゃない。もうイカされるのをなんとか我慢してるだけなんでしょ？ ね？

//ヤコ：（耳舐め）

//ヤコ：もうイッちゃえば？ 楽になっちゃえばいいじゃん。これからどう頑張つたってあなたに勝ち目はないんだから……、もう諦めていきませよ／＼白いの出しちゃいや。

//ヤコ：あなたは私に負けちゃうの。負かされちゃうの。ね？

//ヤコ：（耳舐め）

//ヤコ：ん？ イベ？ いじょ、イッて？ 出して、ほり。

//ヤコ：（耳舐め）

（射精）

//ヤコ：あはっ……、出でてる出でる。ほら……最後まで搾り取つてあげる。

//ヤコ：（耳舐め）

二人、ベッドに並んで寝ている。

勝気なミヤコは、真剣勝負で彼氏に勝つことがとてもうれしい。

ミヤコ：どう、参った？

彼氏は呼吸をするのがやつと。

ミヤコ：あは、そんなにぜーぜーいつちゃって。我慢しちゃ。いつもならもうと早く出しちゃってたでしょ。

ミヤコ：そんなに私に負けるの嫌だったの？

彼氏「俺、ミヤコに負けるの好きなんだけど、でも……今日はなんか負けたくないってわ」

ミヤコ：ふーん、なんか複雑だね、それ。負けたいけど負けたくないって……マゾの人が考えることはよくわかんないや。

ミヤコ：ねえ、もう一回戦いけるでしょ？ 今度はあなたのおちんちんで私のアソコ……イかせてよ。

ミヤコ：あなたが気持ちよさそうにしてるの見てたら、ムズムズしてきちゃって……。ね、いいでしょ？

ミヤコ：ほら、また大きくしてあげるから。

ミヤコ：（ペニスを口に含む）